

令和7年 1月31日 (金)

あさひの日だまり

NO.32

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～児童会の選挙がありました～



楽しい学校創りを語ってくれました

23日(木)に児童会立会演説会と選挙が行われました。候補者の皆さんは、全校で楽しい学校を創りたいという願いを立派な姿と思いのこもった言葉で仲間たちに投げかけてくれました。ここへ来るまでには学級での候補者選び、推薦責任者との打ち合わせや選挙演説の作成、学級訪問、と初めての経験を数多く積んできたと思います。「こんな学校を創りたい」という思いに胸が躍ることもあったでしょうし、演説文の作成に苦心した時間もあつたはずです。上級生の学級での演説では大いに緊張することもあつたでしょう。

当日の候補者の皆さんの姿からは、そういう苦勞を

経験してきた人だけが持つことのできるきりっとした「決意」が演説をするその姿から感じられました。候補者の皆さんそして応援責任者の皆さん本当に立派な姿でした、ご苦勞様でした。

選挙の結果で児童会長には松田心陽さん、副会長には松井咲桜さんが選出されました。正副会長さんをお願いして校長室へ来てもらいました。「校長として考えている理想の学校と、正副会長さんが創りたいと考えている児童会とがずれていたら困っちゃうから、そこは揃えて進んでいきたいんだよね」とお話をし、校長としてどんな学校を創りたいと考えているかをお話ししました。そして、正副会長としてどんな児童会を創りたいと考えているかを話してもらいました。

私は「楽しい学校」を創りたいと話しました。それはいつも子どもたちに放してきたことでした。そして「楽しい」という意味は「挑戦」の結果「充実感や満足感」を感じることに結びつくと考えているんだよと話しました。正副会長さんは児童会のテーマを「全校が楽しめる東小」にしたいんですと話してくれました。そして、本部や6年生だけで決めるのではなく、全校の意見も入れて決めるとも話してくれました、そして「やりがい」が楽しさに結びつくとも話してくれました。私は目の前の2人が考えていることと私が考えていることが決してずれていないことを感じ「先生の思いとみんなの思いはそろっているね」と伝えました。

私は、児童会が企画した計画については基本的にそのまま認めたいと思っています。児童会が学校の進む方向を決める場合があつてよいと思っています。新しい児童会が新しいことにどんどん「挑戦」してくれることを強く願っていますし、職員一同精一杯協力していきたいと思っています。

～来入見1日入学がありました～

1年生が楽しく迎えてくれえました

24日(金)に来入見1日入学がありました。保護者の皆様には学校からいろいろなことについて説明させていただきました。その時間の裏で来入見の皆さんは1年生と交流をしました。その時の様子が次のページの写真です。1年生が席に着いた新入生に踊りを見せています。合わせて私が保護者の皆様にお話しした内容を載せさせていただきました。目を通していただけたら幸いです。

「多様性が大切だ」と言います。その一方で、私たちは「素直で」「大人の言うことをよく聞いて」「みんなと同じようにちゃんとできる」そういう子を育てようとしていないだろうかと思うことがあります。

この頃朝早く目が覚めます。朝というより深夜と言った方がよいかもしれません。トイレに目覚めそのまま目が覚



めてしまうのです。その状態がこの頃顕著です。そういう場合は枕元に置いたタブレットでYouTube（ユーチューブ）を見て時間を過ごします。

いくつかの番組を観ていくうちに、「アインシュタイン」（1879年3月14日 - 1955年4月18日）という科学者の言葉を紹介している番組がありました。

その言葉から二つ紹介します。

我々という言葉に疑問を感じる。誰も隣りの人間と同じではない。

さしずめ現代で言えば「私たちはこう考えます」というけれども、隣りの席の人は本当に私とそっくり同じ考え方なのか？といったところだと思います。

人生を楽しむ秘訣は普通にこだわらないこと。普通と言われる人生を送る人間なんて、一人としていやしない。いたらお目にかかりたいものだ。

こちらは「みんなと同じように普通にちゃんとやって！」という私たちがよく使うフレーズに対する彼の考えだと思えます。

私は思っています。いけないことはいけないときちんと指導することはとても大切です。一方、行動のゆっくりな子、忘れ物の多い子、算数の点数のよくない子、大きな声で返事をできない子、等等々。お家の方の気になることは沢山あると思います。でもこれって悪いことでしょうか。私は悪いことだとは思わないんです。

ゆっくりな子は取り返しのつかない失敗は決してしません。忘れ物の多い子は小さなことを気にしません。算数の点数の低い子は決して勉強のできない友達をバカにしません。大きな声で返事のできない子は心の中でじっくり考える事に長けています。

小学校に入学すると横一線でスタートするので、優れているとか劣っているとかそういう目でお子さんを見てしまう時があるかもしれません。私はできの悪かった单元テストを小さく折りたたんで石の下に隠していました。私のように子どもたちが自分はダメだと思いながら学校へ通わなくてよいように、学校は楽しいところだと思えるように、職員一同精一杯努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

～6年2組がごみ箱を設置しました～

あさひの時間の活動を紹介します



6年2組は「あさひの時間」にふるさと辰野を紹介しようという活動に取り組んでいます。子どもたちはその活動の中で、辰野町に落ちているごみの多さに驚きました。「自分たちで何とかしよう」と考えて取り組んだのがごみ箱の設置でした。役場に設置の許可を得て、自分たちで看板を作ってくれました。役場の方から「すぐにいっぱいになると思うよ」と言われたそうです。実際にその状況のふれるのも大切な経験です。

写真を見て下さい。場所は駅前です。現在もこの場所に設置されています。訪れる機会があったらちょっと関心を寄せて見てあげて下さい。